

○西比亞鐵道

(Railroad gazette march 20 1891)

近來魯人實業發達ニ熱心注意スルハ世人ノ

知ル所ニシテ既^ア富干ノ境界メルヅヘラツトノ高地ニ疏水工事ヲ起シ又中央亞細亞鐵道ヲタシカンドニ延長シ及ヒヴラジカヴスカス線ヲ裏海ノ岸ナルペトログスク迄敷設シテ大ニ同地方天然ノ利ヲ興サント計畫シ居ル由ナルガ同國政府ハ未タ此等ノ小工事ヲ以テ満足セス眼ヲ東洋ニ轉シ一大鐵道ヲ設ケ西比亞ノ大陸ヲ東西ニ橫貫センコトヲ三ケ年間熱慮セシ未當時人烟稀ナル土地柄故其費用ノ莫大ナル割ニハ收支相償ハサルベシトテ東西數流大河ヲ利用シ運河鐵道ヲ敷設スルコト決定シタリ今其運河鐵道ノ設計ヲ見ルニ歐州魯西亞ノカザン市ヨリベルム迄五百九十七哩ハカマ河ヲ利用シテ是ヲ運河トナシベルム市ヨリチウメン迄五百十二哩ハ既成ノウラル鐵道ニ由リチウメンヨリトムスク府迄千八百五十六哩ハトールラトボルイルチシエラヒ及トム河ヲ利用シ同府ヨリイルグスク府迄千三十四哩ハ新ニ鐵道ヲ敷設スルコトシ同府ヨリ百哩ハ湖水ハリカルヲ横キリテムーホスキー埠頭ニ至リ同地ヨリ六百九十九哩スレガチンスイ迄鐵道ヲ敷設シ夫レヨリアムールウリク河ニ由テクラフイスキ迄千五百二十五哩ヲ下リ同地ヨリ浦撻德斯迄二百五十五哩ノ新鐵道ヲ布設スル積リニテ起端ナルカザン府ヨリ浦撻期德港迄總計六千五百四十八哩ノ内四千七十四哩ハ水路ニヨリテ船ヲ利用シ残り二千四百七十八哩ヲ鐵道ニテ旅行スル事ナレハ其一切ノ費用ヲ概算シテ千六百二十万封度我九千七百二十万圓ニテ事足ル譯ナレ共斯クスル時ハ其價ハ恰當ナレド其割合ニ不利益ノ點多ク殊ニ北地寒冷ノ氷野ヲ横斷スルコトナレハ一年ノ内四ヶ月半ノ外海水氷結シテ運輸ニ便ナラス然ルニモスコー府ヨリ浦撻德港迄ハ積換乘換等ノ煩

ヒ多ク荷物ハ七十五日旅客ト三十五日ヲ要スルヲ以テ殆ト一年間ニ荷物列車ハ一往復旅客
 列車ハ二往復ヲ爲シ得ルノミニシテ運賃モ一本我十三貫六百目ニ付二十一志我五圓八十錢
 ヲ要スベシ現時已ニアムール及ヒ其支流ウソリシエルカノ河流ニハ四十二艘ノ汽船アリテ
 其内十五艘ハアムール汽船會社ニ屬シ實ニ東部西比利亞ヨリ中央部ニ交通スル機關ナレモ
 冬時ハ常ニ堅氷河面ヲ填塞シテ交通全ク止ム之ニ由テ運河鐵道設計モ到底其利益ヲ見ル可
 カラストテ廢棄スル事トナレリ然ルニ更ニ考按ヲ改メテ他ノ線路ヲ査定シ現ニ技師ノ手ヲ經
 テ帝國參事院ニ差出シアル由ナルガ今聞ク處ニヨレハ此度ノ設斗ハ更ニ河流ニ由ラスシテ
 現今ノ烏拉留鐵道ヲ基礎トシ西ノ方ハニシヤノーヴユツトニ延長シ東ノ方ハニシニオージ
 ンスク府トテ東部西比利亞ノ首府ナルイルクスク府ノ西三百二十哩ノ地迄至ラシメント
 スルモノトサモラオーレンボルク線ノ終點ナルオーレンボルクヨリ前ニ云フニシニ、オーヂ
 ンスクニ至ルモノト現今ノサコラオーフハ線路ヲ烏拉留山ノ東麓ナル鑛山地ミヤスケ府ヨ
 リ千八百二十哩ヲ延長シテニシニ、オーヂンスク府迄至ラシムルモノト、三線アレモ第三線ハ
 西比利亞中第一等ノ沃土ニシテ五穀ヨク登リ牧畜ニ適セシ地ナレバ多分此線ニ決スルナラ
 ント云フ扱テ亦タニシニ、オーヂンスク府ヨリ以東ハ唯々一線ニシテイルクスク府ニ出テハ
 イガル湖ノ南岸ヲ廻リテムーリフスキイ埠頭ニ至リ更ニ東北ニ曲リテスレチジンスクヨリ
 黒龍江、烏蘇里河ニ沼ヒテ布設シ東海ノセバストポールナル浦盪斯德港ニ至ル等ニシテ全線
 ノ長サ四千七百八十三哩現今世界最長ノ鐵道ニシテ加奈陀太平洋鐵道ノ二倍ナレハ無論一
 朝ニシテ落成ヲ望ム可カラス少クトモ十ヶ年或ハ十二ヶ年ノ日子ヲ要ス可ケレバ全線落成

シテ交通ヲ始ムルハ二十世紀ノ始メ頃ニナルナシカ又タ其費用ハ停車場車類及ヒ一切ノ費用ヲ合算シテ一哩ニ付七千六百八十封度即チ全線四千八百七十五哩ニハ三千六百七十六万五千封度我カ二億六百八十八万四千圓ヲ要スルヲナレハ迎モ一時ニ敷設ハ六ヶ敷カル可キモ先ツ本年ヨリ浦攔斯德港ガフスキイ間二百五十五哩ニ着手シ毎年三百万封度宛ヲ支出シテ落成セムル見込ナリト云フ

○鐵道客車ノ燭光 (Engineering News March 1 1891) 客車長サ五十呎ノモノヲ照ラスニハ實驗上左ノ結果ヲ得タリ

ランプ(油ヲ用ユ)	七個	百六十八燭光	百十三弗	二弗五十一錢
Pintsch gas	十七個	百七十燭光	五百五十二弗	二弗六十錢
Frost gasolint	五個	百八十燭光	五百三十六弗	四弗四十六錢
電氣燈	十個	百六十燭光	三百九十五弗	九弗八十三錢

(以上五件 杉山輯吉)

○電話線 アメリカンベルテレホン會社(ポストン)ニテハ地下用電話線ノ適當ナル太サ及絶縁等ノ研究怠ラザリシカ二ヶ年間經驗ノ末其線ノカバシチーヲ・二〇ヨリ・〇九マイクロハラドニ引下ケタリ此結果ハ電話通信上最有益ナリトス該社ハ目今二吋ノ鉛覆ケーブルニ百條ノ線ヲ布設中ナリ (本年四月十八日紐育エレクトリック、エーヅ 加藤木重教)

○造船新法ノ發明 エーシー、ホルザブフェル氏ハ船舶ノ構造ニ鉄ヲ打込ムタメハイドロ